



10年後の子どもに必要な「見えない学力」の育て方（著）大空小学校初代校長 木村泰子 より引用

10年後の社会を生き抜くために必要な4つの力とは②

「人を大切にする力」「自分の考えを持つ力」

「自分を表現する力」「チャレンジする力」

表現力を伸ばす「目的」と「手段」をごっちゃにいませんか

「自分の考えを持つ力」は、「自分を表現する力」につながります。「自分を表現する力」が社会に出てからはとても大切、よく言われますね。でも、それは社会に出たらスピーチやプレゼンができるように、会議で意見が言えるように、企画書やメールに必要な文章力が必要だからとっていませんか？ もしくは大学入試に必要なだから？ 学校や社会でいい評価を受けるために必要なのだとと思っているとしたら、決して自分を表現する力をつけることにはつながらないと思います。その結果、どうなるかというと、**「評価されることを目的とした表現力」**がつくだけ。そうなれば、子どもは評価されない場面では、自分の為に自分からどんどん表現して、自分を出していこうなどとは思わないでしょうね。

自分の考えを表現する力をつける。この目的は、なりたい自分になって自分に自信をもち、自分を大切にして、社会に出たときに活躍するため。自分が主体的に社会をつくる一人と生きていくためなのです。そのためには、自分がどんな場でも、どんな相手でも、自分らしく自分の言葉で語るこの力を、子ども時代に体中に染み込ませないといけません。プレゼンなどは、単なる手段です。手段と目的を混合してはダメなんです。

「うるさい」「面倒くさい」「知らん」と言う子が自分の言葉を語り出す方法

わが子がすぐ「面倒くさい」と言って困る、という相談を受けることがあります。それについては、なぜ面倒くさいというのかをその子自身から学ばない限り、無理です。もし大人が「面倒くさいって言うな！」と言ったら、子どもは口を閉じるだけ。でも納得はしていません。だから、見えないところでストレスをためていきます。「面倒くさい」と言った時の対処方法は、簡単なんです。**「面倒くさいという言葉を使わずに、”面倒くさい”を説明して」**こう聞いてみる。子どもは面倒くさいという言葉でスルーしようとするのです。子どもはどこからこれを学ぶかと言うと、大人からなんです。たとえば、たとえば家庭で親が「面倒くさい」と言うじゃないですか。**「面倒くさい」と言う言葉を聞いたことがなければ、子どもは使いませんから。**

ついでに言うと、殴られる経験値があるから、困ったら人を殴るようになる。砂漠で一人で生きていたら、自閉的な傾向も表れません。他者や環境に障壁があるから困ったことが起こるかもしれないし、自閉的な傾向も表れるのです。「この子は自閉症だ」「発達障がいだ」とか言って、隔離してしまったら、その子自身も周りも育ちません。このまま社会に出たら、共生社会などできるわけありませんよね。障がいを見てしまうと、その子本人が見えなくなる。

【「自分で表現する力」を伸ばす親の習慣】

①子どもが困っているとき、問題解決方法を教えない ②「自分が子どもの立場だったら」「自分がされたらどうか」と想像する ③子どもを主語に変えて「対話する」 ④子どもの「イヤ！」には「教えてよ」のスタンスで